音楽づくりの授業における豊かな表現力を育てるための小学校音楽科の指導の工夫

－発達段階に応じた常時活動を通して－

草津町立草津小学校　教諭　矢﨑　葉子

Ⅰ　研究のテーマ設定の目的

音楽づくりの学習において、今までは「教材をつくる」ことを優先してフラッシュカードやワークシートを工夫してきていた。しかし、教材の準備よりも、児童が音楽づくりを行う上で必要になってくる音楽的な力を身に付けることや、音楽の要素を正しく理解し、活用できることが大切なのではないかと感じた。リズムを読む力や、普段はあまり使用しない打楽器を自分の思い通りに演奏する力。また、普段の学習の中で出てくる「くり返し」や「音の重なり」を、実際に自分で活用する力などは、音楽作りの授業の中だけで身に付けることは難しい。

そこで、上記の課題を解決するために、「常時活動」の時間を取り入れることにした。各学年で指導する共通事項をもとに「リズムあそび」を中心とした分かりやすい活動を設定し、授業の導入の段階で１０分程度、毎時間同じ活動を発展させながらくり返し行う。常時活動を通して少しずつ楽しみながら「音楽の要素」に親しみ、リズム打ちをしたり打楽器を演奏する経験を積んだりすることで、児童の豊かな表現力を育成することができると考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

主な常時活動として、下記の学年と内容で実践した。いずれの活動も音楽の授業の最初に実施し、音楽の授業を受ける心構えを作ることができるよう設定した。各学年ごとに活動を発展させることによって、四年間を見通して系統的に学習できるようになっている。

各学年における活動内容と、活用されると予想される音楽の諸要素等については下記の通りである。

１．第３学年

種類	活動名　及び　活動内容	活用すると予想される音楽の仕組み及び　音楽を特徴付けている要素
1	**『手遊びを取り入れたペア活動』（通年）** ・自由にペアを組み、「なべなべそこぬけ」「茶摘み」の音楽に合わせて歌いながら手遊びをする。	拍の流れやフレーズ、リズム、速度
2	**『自分のつくったリズム紹介』（二学期）** ・音楽づくりの学習で、くり返しや変化を使ってつくった４小節のリズムを、毎時間２人ずつ発表する。	リズム、反復、問いと答え、**変化**

	・ホワイトボードに音符のカードを貼り付けて並べることによって簡単に自分のリズムを再現できるようにしておく。 ・児童は自分のリズムをホワイトボードに貼り終わると、くじを引いて当たった打楽器でそれを演奏する。 ・全員でリズムをたたき、打楽器と手拍子で真似っこあそびをする。	

※太字のフォント部分は、学年が上がったことにより新しく加わった内容である。

２．第４学年

種類	活動名　及び　活動内容	活用すると予想される音楽の仕組み及び　音楽を特徴付けている要素
1	**『４文字の言葉のリズムを使ったペア活動』** **（一学期）** ・４文字の言葉のリズムをつかって、ペアを作り手拍子しながらリズムの真似っこあそびをする。（教科書のリズムアンサンブルづくりを参考とした） ・言葉のリズムに慣れてきたら、リズムを拡大・縮小して「音の重なり」「問いと答え」「くり返し」「変化」など音楽の要素を使って活動。 ・４文字の言葉は即興的な言葉も認め、手拍子をしながら拍に合わせて言い合うようにした。	拍の流れやフレーズ、リズム、反復、問いと答え、変化、**音の重なり**
2	**『打楽器を使ったペアでのリズムあそび』** **（二学期）** ・音楽室に入るとすぐにくじを引き、当たった打楽器を準備してから自分の席につく。楽器によってはマレット（ばち）を自分の考えで選んでもよい。 ・ホワイトボードに毎回違うリズムを２パターン用意しておき、最初に全員でリズムを確認する。 ・自由にペアになってじゃんけんをし、勝った方が演奏したリズムを負けた方が真似して演奏する活動を何度かくり返す。	拍の流れやフレーズ、リズム、反復、問いと答え、変化、音の重なり

３．第５学年

種類	活動名　及び　活動内容	活用すると予想される音楽の仕組み及び　音楽を特徴付けている要素
1	**『楽器を使ったペアでのリズムあそび』(二学期)** ・第４学年からの発展版で、打楽器の書かれたクジを引き、その楽器にふさわしいリズムを教科書に載っている６パターンのリズムから選ぶ。 ・自由にペアをつくり、互いにリズムを演奏し合う。 ・６パターンのリズムに慣れたら、自分で即興的に考えたリズムも認めることとした。また、ペアだけでなく３人や４人で組む活動も取り入れた。	拍の流れやフレーズ、リズム、反復、問いと答え、変化、音の重なり、**強弱**

４．第５、第６学年

種類	活動名　及び　活動内容	活用すると予想される音楽の仕組み及び　音楽を特徴付けている要素
1	**『ミュージックアワー・クイズ』(通年)** ・クラスごとに一人一曲、自分の好きな曲を事前に選んでおき、授業の始めに一曲ずつ鑑賞する。 ・選んだ理由を音楽の要素からクイズにすることで、自分の好きな曲にどんな音楽の要素が使われているのかを考えるようにした。	拍の流れやフレーズ、リズム、反復、問いと答え、音の重なり、変化、強弱、**音楽の縦と横の関係**

学年が上がるにつれて、複雑なリズムを学習できるよう発展させてある。また、ペア活動からより大人数のグループへ発展させていくことによって、複数の楽器で重なりを作る難しさや楽しさを体験できるよう工夫した。音楽の仕組み及び音楽を特徴付けている要素についても、高学年の活動では多く活用できるようになっている。

Ⅲ　各学年の実践

１．第３学年

（１）『手遊びを取り入れたペア活動』の様子と児童の変容など

友達と自由に活動することを楽しみながら、拍の流れに乗って体を動かしたり、伴奏の速さを感じ取ってそれに合わせて動きを変化させたりする力がついてきた。また、伴奏を高くすると手遊びを人差し指だけにしたり、しゃがんで小さくなったりと、自由に身体表現する様子が見られた。逆に低い音で演奏すると、足踏みをつける児童もいた。そのように工夫して活動する児童を取り出して紹介することで、クラス全体の表現力が高められてきた。

（２）『自分のつくったリズム紹介』の様子など

リズムを紹介する活動では、自分の番を心待ちにしている児童が多く、リズム打ちを楽しんでいる様子である。最初の頃は ♩ と ♫ の組み合わさったリズムに難しさを感じる児童もいたようだが、だんだんとパターンを掴んで、上手に打つことができる児童が増えてきた。友達が活動する様子を見ていたことで、後半になるにつれて自分のリズムをホワイトボードに再現するスピードも速くなっていた。

「くり返し」と「変化」について、リズム打ちだけでなく音楽鑑賞の場面や歌唱の学習においても気が付くことができるよう、定着を図っていきたい。

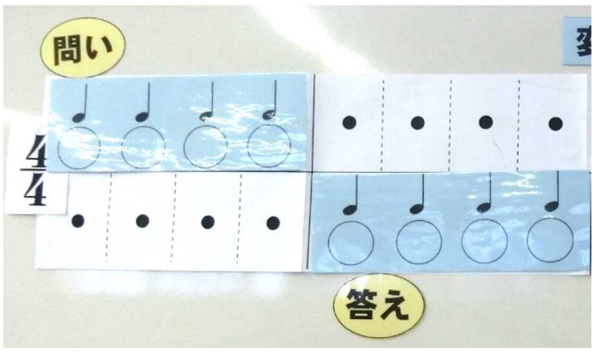
２．第４学年

（１）『４文字の言葉のリズムを使ったペア活動』の様子と児童の変容など

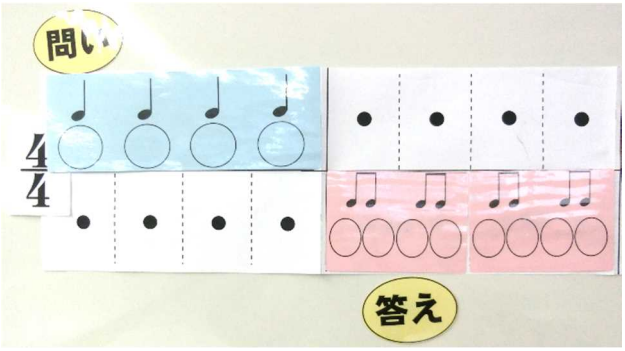
友達と同じ言葉を同じリズムでくり返す活動（**写真１**）から始め、だんだんと縮小・拡大されたリズムを混ぜていく（**写真２、３**）ことで、「問いと答え」「くり返し」「変化」「音の重なり」について学習することができた。また、拍の流れを感じることができるよう、リズムマシンを活用して８ビートのリズムを流しながら活動したことも有効だったようである。

リズムアンサンブルづくりの学習でもこの活動が生かされて、ほとんどの児童が言葉のリズム感を感じ取って手拍子したり拍の流れに合わせて体を動かしたりすることができた。また、全ての児童が８ビートのリズムにのって、ずれることなくアンサンブルすることができた。常時活動の時間から使用していたリズムカードを使ったことも、操作しながら試行錯誤する上で助けになった。

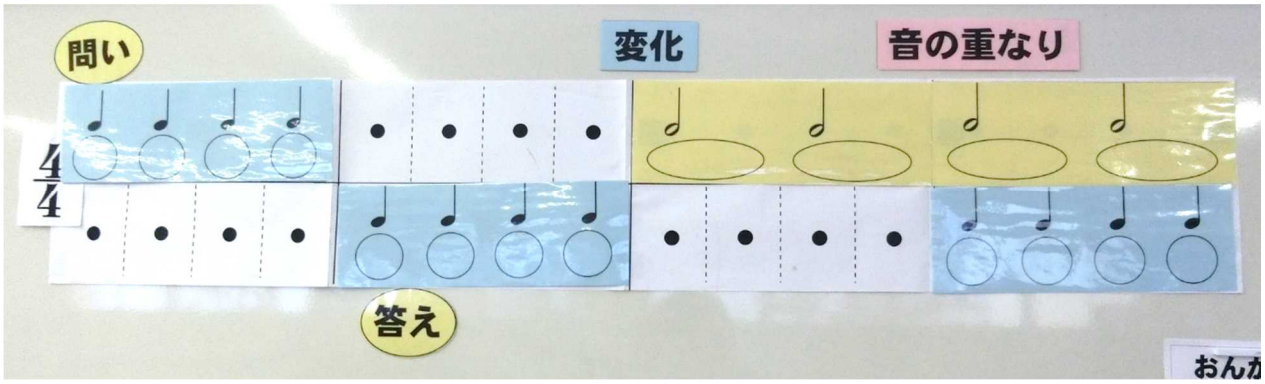
第４学年　基本となるくり返しのリズム



答える側が縮小されたリズ



問いと答え、変化、音の重なりがあるリズム



（２）『打楽器を使ったペアでのリズムあそび』の様子と児童の変容など

二学期からはタンバリンやカスタネットなどの打楽器を使ったリズムあそびに発展させた。♩ や ♫ を使ったリズムだけでなく、♩.♪ や ♪♩♪ など少し難しいリズムが読めるようになってきている。同時に、小物打楽器の基本的な奏法を学んだり、たたき方やたたく物の工夫によって音色が変わることについても学習を進めている。ボンゴやコンガ、スネアドラムなども演奏していたが、二学期の後半からは「シェイカー」や「フィンガーシンバル」など、普段の授業では登場しない楽器を取り入れたことで意欲が増したようである。また、くじ方式によって様々な楽器を経験したことによって、二学期後半の打楽器の音楽をつくる学習では、自分たちの思いやテーマ、物語に合った音色から楽器を選ぶことができた児童が多かった。

３．第５学年

（１）『楽器を使ったペアでのリズムあそび』の様子と児童の変容など

ランダムにペアを作り、じゃんけんをして勝った方から自分の楽器にあったリズムを選んでたたく活動をくり返したことによって、相手のリズムを集中して聴き、拍の流れに乗って同じようにたたくことができる力が身についた。

打楽器を用いた常時活動の様子

同じ相手とは三回リズムをくり返したら終わるという活動だったが、途中から三回全て違うリズムをたたくことができるようになったり、即興的にリズムを考えてたたいたりする活動ができるようになった。自分が即興的に作ったリズムを紹介する活動は恥ずかしいと感じる児童が多いようだが、活動を続ける中で挑戦してみようとする気持ちが育ってきている印象である。

この活動を生かして「リズムを選んでアンサンブル」の学習を行った。６つのリズムパターンに親しんでいたおかげで、それぞれのリズムのもつイメージを自分たちの思いと結びつける活動がスムーズに行われ、全てのグループが拍の流れに乗って上手に自分たちのリズムアンサンブルを演奏することができた。

（２）『ミュージックアワー・クイズ』の様子と児童の変容など

様々な楽曲を聴く中から、少しずつ「曲想」と「音楽を特徴付けている要素」との結びつきについて考えることができるようになってきている。ヒントとして二種類の要素を掲示していたが、話型を使って「速度が○○だから△△な感じがした。」「音色が□□だから●●だと思った。」など、ある程度の書き方を決めてもよいかもしれない。書くことが難しい児童への支援として検討中である。

４．第６学年

（１）『ミュージックアワー・クイズ』の様子と児童の変容など

学年の実態として、音楽鑑賞の学習において、何を書けばよいのか迷ってしまう児童が複数いた。それらの児童を支援したいと考えたことがこの活動の始まりである。高学年になるにつれて自分の音楽的な嗜好に気づき始める児童も増えるため、「どうして好ましいと感じるのか」つまり、「どんな音楽の要素が使われていると、よいと感じるのか」を考えることで音楽の要素の働きについて理解できていくことを目指した。また、様々な種類の音楽に触れることで児童の中の音楽の世界を広げさせたいという思いもあった。

音楽の要素と曲想の関わりについて、「弱くなって急に強くなったからびっくりした。迫ってくる感じがする」「テンポが速くて、元気が出る」等、少しずつ気が付くことができるようになってきている。誰かの好きな曲を聴いている、という思いからか、否定的な感想はなく、曲のよいところを見つけて書くことができる児童が多い印象だった。聴きながらは好きな理由を予想して書くクイズ形式になってはいるが、ヒントとして音楽の要素を二つ掲示し、どちらかが正解となるようにした。もちろん音楽の要素に関係なく、簡単な感想を書いてもよいこととした。その人が曲を選んだ理由と違うことを書いても「それもこの曲の魅力ということ」と声かけしたことで、自由に書くことができるようになったようである。

児童の選ぶ楽曲はクラシックからアニメソングまで様々であり、曲を好きになる理由も「音色がきれいで落ち着く」「激しくて元気が出る」など音楽の言葉で表現できる理由と、「好きな映画のテーマソングだから」「歌詞がいい」など、曲想や音楽の要素と直接関わりのない理由もあった。児童の実態を踏まえ、また楽曲との出会いを尊重し、音楽の言葉をつかって表現できない理由の時もありということにした。

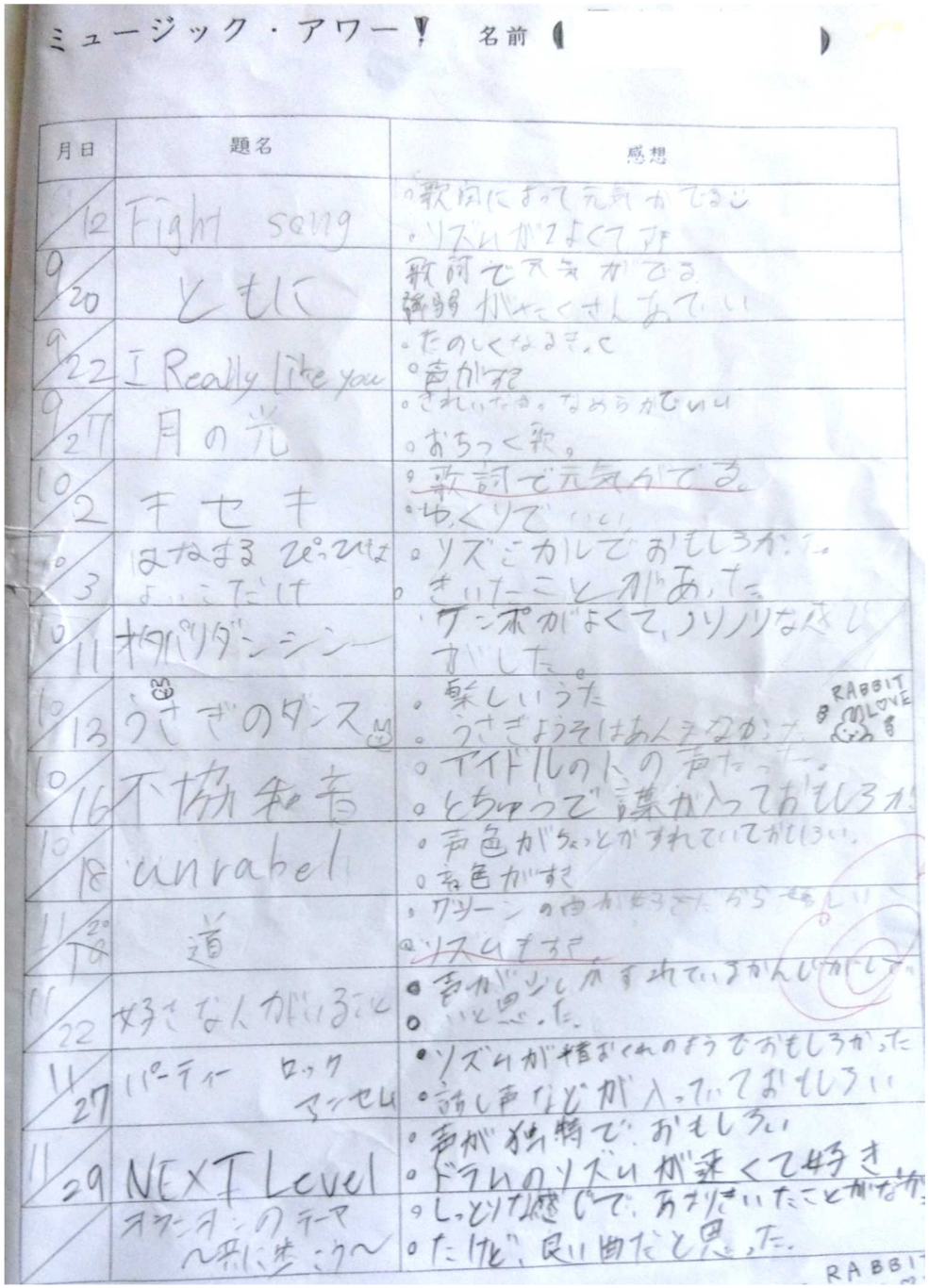
そのような理由がクイズの答えとなる時は、ヒントの掲示を「速度（または他の要素）」か、「その他」の理由で好き、と表記した。

好きな曲を共有するという楽しみもあって、音楽を集中して聴くことができる児童が増えたため、「ハンガリー舞曲　第５番」の鑑賞の学習ではリズムの特徴や自分の考えを書くことができる児童が増えていた。ミュージックアワー・クイズについては三学期も継続していく。

和音の音で旋律作りをする学習では、めあてを「自分のテーマ曲をつくろう」と設定し、自分が好きな曲想を考え、それを生み出すために必要な音楽の要素を使って旋律づくりを行ったが、記譜と演奏に苦戦する様子があった。頭で理解したことが演奏で表現できるよう、技術力をつける必要があると考える。

（２）「ミュージックアワ・クイズ　ワークシート」について

ワークシートは教科書の最後のページに貼り付けて、いつでも見ることができるようにしてある。前にも同じ要素が働いている曲を聴いたことがある、と感じたときに見直すことができるようにするためである。児童は音楽の要素を曲想を表現する言葉として使うだけでなく、要素がどのように働いているのかについても少しずつ考えることができるようになってきている。

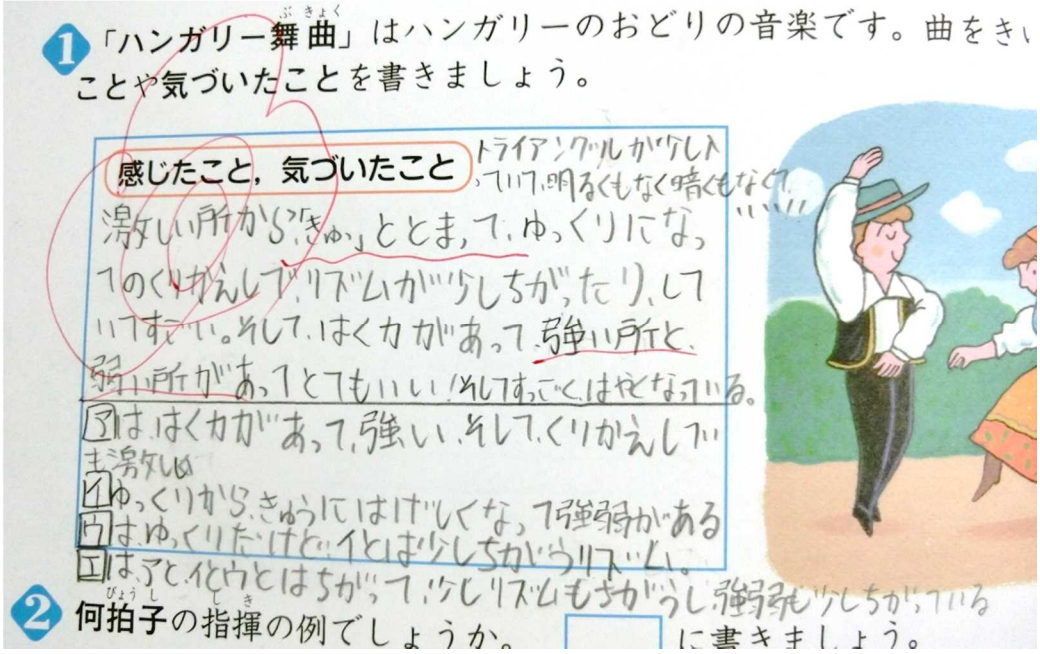


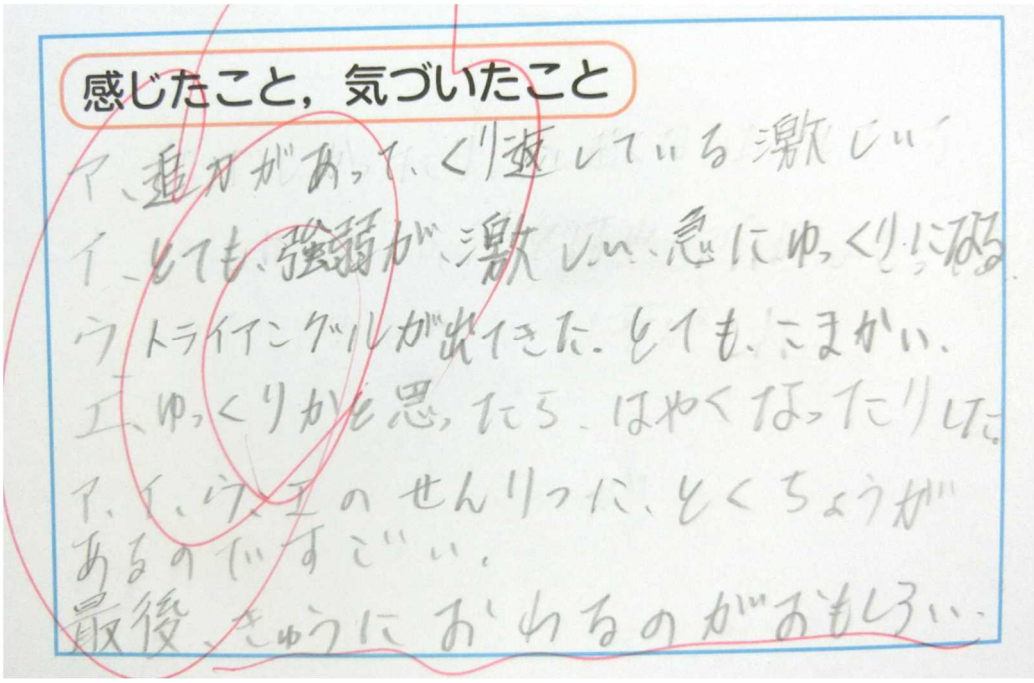
ミュージック・アワー！　名前（　　）

月日	題名	感想
9/12	Fight song	・歌詞によって元気がでる。 ・リズムがよくて好
9/20	ともに	歌詞で元気がでる 強弱がたくさんあっていい
9/22	I Really like you	・たのしくなるきょく ・声がすき
9/27	月の光	・きれいな。なめらかでいい ・おちつく歌。
10/2	キセキ	・歌詞で元気がでる。 ・ゆくりでいい
10/3	はなまる ぴっぴはよいこだけ	・リズムがかるくておもしろかった。 ・きいたことがあった。
10/11	オクパリダンシング	・テンポがよくてノリノリな感じがした。
10/13	うさぎのダンス	・楽しいうた ・うさぎようそはあんまりなかった。
10/16	不協和音	・アイドルのような声だった。 ・とちゅうで謎が入っておもしろかった
10/18	unrabel	・声色がちょっとかすれていておもしろい。 ・声色がすき
11/20 下	道	・ワンーンの曲が好きだからたのしい ・リズムすき
11/22	好きな人がいること	・声が少しかすれているかんじがしてい ・いと思った。
11/27	パーティーロック マンセル	・リズムが指ぱくれのようでおもしろかった ・話し声などが入っておもしろい
11/29	NEXT Level	・声が独特で、おもしろい ・ドラムのリズムが楽くて好き
	オマンタのテーマ ～前に歩こう～	・しっとりな感じで、あまりきいたことがなかった ・たけど、良い曲だと思った。

（３）「ハンガリー舞曲　第５番　鑑賞」について

「音楽を聴いて感じたことを書く」という経験を積んだおかげで、自分の思いを言葉にして表現することに慣れることができた印象だった。曲想と音楽の要素の働きについての関わりにも気が付くことができる児童が増えてきた。ハンガリー舞曲は複数の旋律が組み合わさって構成されているが、以下のワークシートではそれぞれの旋律の特徴について、どのような音楽の要素が関係しているのか書くことができている。





Ⅳ　研究のまとめ

１．成果

常時活動の時間を取り入れたことの成果は、以下のように整理できる。

① 毎時間１０分程度の短い活動を積み重ねることによって、少しずつ表現力や技術力など様々な視点から児童の力を育てることができた。

② 音楽活動をする中で使われている音楽の諸要素について、児童も学年ごとに系統的、発展的に少しずつ理解していくことができた。

③ くり返し活動する中で達成感を味わい、児童が自信をつけるきっかけをつくることができた。

④ 様々な楽器や楽曲に親しむことで、音楽を愛好する心情を養うことができた。

⑤ 音楽づくりの授業の中で、常時活動を通して得た知識や技術を活用することができた。

２．課題

今後の課題として、下記のようなことが明らかとなった。

① 同じ活動ばかりだとマンネリ化してしまうため、「リズムパターンを覚える」「いくつかのパターンを組み合わせる」「自由にやってみる」など、活動の中でも発展性をもたせるようにする必要がある。

② 少しずつ難しい活動にシフトししていく中で、活動を難しいと考える児童がいないか、支援を要する場面を予測してつまずきをなくしていく。

③ 「やりっぱなし」にならないよう、どこかの授業で必ず活動を生かすことができるゴールを用意しておく。

④ 発達段階や児童の実態に合わせて身に付けさせたい力をはっきりイメージした活動を考え、児童を確実に高めていけるようにする。

⑤ 児童の実態に合わせて、身に付けさせたい力をはっきりとイメージしておかないと、活動に意味がなくなってしまう。リズムあそびや楽しい活動に限らず、５分間リコーダー練習をしたり、鍵盤ハーモニカで即興的なリズム回しをするなど、基本的な技術面を高める活動も取り入れるとよい。

３．まとめ

音楽科における表現力や技術力は個人差がつきやすいため、全員ができる活動から授業をつくることで、音楽の授業に苦手意識を持つ児童を減らしていくことができると考える。児童に身につけさせたい力のイメージから始めた常時活動の時間だったが、「こんなこともできるんだ」と児童のもつ力に驚かされたり、「先生、こんな風にやってみたら？」と児童の方から工夫が飛び出したりと、予想外の収穫もあった。

実態に合わせて発展させていったことで「これならできる」「何回もやったらできた」という達成感を味わわせることもできたようである。常時活動を楽しみにして音楽室へやってくる児童もおり、教師自身も楽しい気持ちで授業を始めることができた。常時活動を通して、児童に力をつけさせていきながら、教師自身も少しずつ高められているようだった。

常時活動の時間は「楽しい」の中に学びがあり、続けることで少しずつ確実に児童の表現力を豊かにしていくことができるが、常時活動のみで終わらせるのではなく、どこかの音楽づくりの学習、または歌唱や器楽、鑑賞の学習でその力が生かされることにより、児童が自分に身についている力を実感することができるようにしていくことで、児童がさらに意欲的に取り組むことができるようになるだろう。

今後も活動を模索し、常時活動を通して児童と共に成長する授業をつくっていきたい。